

研究結果

「日本近代文学における漢文学の位置」というテーマの下で、戦時下作家中島敦を主な対象とし、その作品における漢文学的伝統の問題を中心に二つの部分に分けて研究を行った。二つの部分の具体的な内容と研究結果は以下のものである。

まずは、東アジアを漢文という共通語によって結ばれた一つの文化共同体と見做そうとした中島敦の考え方をその南島関連の作品を通じて考察した。考察は主にそれらの作品に見られる「愛」と「東洋」という二つのキーワードを手がかりに行われた。その結果、中島による「東洋共同体」の想像は「西洋的近代」に対する彼の反省に導かれたものであることが明らかになった。西洋に対して覚えた文化的危機感が「愛」による「東洋」の連帯という夢に中島を導き、彼に漢文的要素を生かした新しいスタイルの文学を生み出させるとともに、戦争に対する曖昧な態度ももたらしたのである。

次に、漢文的要素の光る中島の文学スタイルが生まれた背景を初期の文学論の考察を通して探った。これまで看過されてきた「新古今集と藤原良経」「鏡花氏の文章」などの初期文学論を考察した結果、中国古典文学の素材及び漢文調の文体を用いた中島の独特の作品スタイルは単に中国の漢文学の影響を受けたものではなく、日本の古典の中における漢文学の伝統を受け継いだ、一種の「日本回帰」を含意するものであることが明らかになった。

上記二つの部分の研究を通して、予定の研究範囲を少し狭めたものではあるが、本研究で目指した「近代日本における漢文学的伝統の継承と再編」の様子を一部明らかにすることができた。今後は引き続きこの研究テーマの下で、漱石など他の作家も射程に入れて研究を行う予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

「从南岛叙述看“东亚”迷思——重读二战时期的中岛敦作品」
陳愛華 日本文学研究会十届年会 2006年8月15日 四川大学外国語学院

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

「中島敦文学创新中的日本古典因素——〈新古今集与藤原良经〉的启示」
陳愛華 『外国語言文学研究』第19号 重慶大学外国語学院・北京航空航天大学外国語学部編 2007年1月

注：論文タイトルの中国語の字体は simsun 体になっております。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :